

ベトナム社会科学研究所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査

日越交流に関わる資料を中心に

佐野 愛子

1. はじめに

本稿は、ベトナム社会科学アカデミーの社会科学情報研究所（Institute of Social Sciences information, Vietnam academy of Social Sciences、以降 ISSI）が所蔵する日本語資料群に関して、調査グループが行ってきた調査を、筆者がベトナム国家大学ホーチミン市校（USSH-VNU HCMC）のシンポジウムで報告した内容⁽¹⁾に基づいている。

そもそもこれら日本語資料群は、かつてベトナムにあったフランス極東学院（École française d'Extrême-Orient、以降 EFEO）が収集した文献である。収集にあたっては、1901年に EFEO の研究員となり、日本研究を担当し、のちに三代目の学院長となったクロード・メートル（1876-1925）と、その友人で司書兼研究員（1907～）でもあったノエル・ペリ（1865-1922）が大きな役割を果たしている。その後も、二人の跡を継いで日本研究にあたった金永鍵などの活動により、現在、ベトナム社会科学アカデミーには1万1千冊（洋装本 NBC00001-NBC005642、和装本 NBC005643-NBC009726）にも及ぶ日本語文献が収集されるに到った。

本調査は、これら日本語文献の変遷や形成を明らかにすることを目的としており、そのために目録情報の整備、さらにはそれら文献の保存、公開の作業を行う。現在は目録情報の整備段階である。調査は2014年から行われており、調査団のメンバーは、2014年に和田敦彦、渡辺匡一、河内聡子、中野綾子が、2015年からは海野圭介が2016年からは西尾泰貴及び筆者が加わっている。

本調査は、これまでに日本では〔和田2014〕〔和田2016〕〔渡辺2017〕〔佐野2017〕⁽²⁾などで報告がなされてきた。また〔和田2016〕⁽³⁾については、Nguyễn Dương Đỗ Quyên⁽⁴⁾によってベトナム語による翻訳がなされている。とはいえ、ベトナムでの紹介はまだ少なく、特に南部での認知度は、それほど高いとはいえない。そこで筆者は、2017年11月、ホーチミン市で開催された国際会議において、本調査の報告及び、本調査で発見されたいくつかの資料を紹介した。本稿では、この国際会議での報告内容、及び紹介した資料の概要を以下に記す。

2. 国際会議における報告内容

2017年11月16日、ベトナム国家大学ホーチミン市校において、国際会議「VIETNAM AND THE ORIENTAL CULTURAL EXCHANGES」が開催された。会議のトピックは、ベトナムと東アジア、東南アジア、南アジア間の仏教、詩文、紀行文、国交などの交流と広く文化交流にまたがる設定となっていた。それに基づいて応募された要約とペーパーをもとに、実際の会議では、3つのパネルが容易された。なお1つのパネルごとに、報告者はおよそ20人の構成となっており、各パネルの報告者は更に午前と午後に分かれ報告することになっていた。本会議の使用言語は、ベトナム語、英語、中国語の3言語であったため、ベトナムを除くと中韓からの参加者が最も多かった。その他に日本からの参加者が筆者を含めて3名いた。

筆者の報告は、パネル1で、午前中の2番目の報告であった。チェアマンは Nguyễn Hữu Hiếu、Nguyễn Hữu Mùi、朱鋭泉の3名であった。Nguyễn Hữu Hiếu、Nguyễn Hữu Mùi の両氏はベトナム人で朱鋭泉氏は中国人である。特にパネルにタイトルは付けられていなかったが、筆者の見たところ、朱鋭泉氏の「中国古典家庭小説『林蘭香』と『謝氏南征記』の倫理叙事比較」という中国と韓国の伝奇小説の比較や、Phạm Văn Tuấn 氏の「移民元韶禪師」という中国からベトナムに移住した元韶禪師に関する発表など、前近代の文学や仏教に関する内容が多いように見受けられた。

筆者の報告タイトルは「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査―日越交流に関わる資料を中心に⁽⁵⁾」というものであり、そのペーパーの内容は主に、2014年から2016年までの本調査の概要、日越交流に関わる資料の紹介の2つに分けられる。本調査の概要は更に、EFEO が所蔵していた日本語資料が ISSI に移管された経緯、調査団のメンバー紹介、本調査の目的、その目的のために行っている和装本・洋装本それぞれの目録化作業の説明に分かれる。

日越交流に関わる資料の紹介は、3つに分かれており、1つ目は1931年から EFEO で日本研究にあたり、日本でも日越交流史⁽⁶⁾についての研究を発表している金永鍵⁽⁷⁾についてである。筆者は金永鍵の略歴および日本語資料の中から、金永鍵が収集した資料をいくつか紹介した。

2つ目は、和装本の中から、NBC9299「異国渡海御朱印帳／異国近年御書草案／異国御朱印帳」と NBC9300「安南記／安南来状」の2点を紹介した。この2点の資料は、2016年の第3回目の和装本の調査で目録化したもので、それら2点には、ベトナム語で記述された紙片が貼られていた点に、他の資料と異なる特徴があった。紙片を翻訳したところ、それは資料の書誌情報であることがわかったが、EFEO

の収集した日本語資料において、日本とベトナム間の貿易に関する資料に、このような書誌情報が付される場合があることを指摘した。⁽⁸⁾

3つ目は、洋装本の中から、NBC5069を紹介した。本資料は、2017年の第4回目の調査で発見されたもので、徐元漠なるベトナム人が著した『日本歴史略編』という書名の本である。本資料に関しては後述する。

パネルは、報告者の報告ごとにチェアマンから簡単な感想が述べられ、全ての報告者の報告が終わった後に、討論の時間を設けるかたちで進行がなされた。筆者のいたパネルでは、残念ながら報告時間が長引いたため、最後に Đoàn Lê Giang 氏によって、それぞれの報告者へコメントをするのみで終了した。Đoàn Lê Giang 氏からは、筆者の報告に関し、ISSI に1万冊以上もの日本語資料が所蔵されていることへの驚きが述べられるとともに、今後の調査の更なる進展に期待が寄せられた。

また、討論の時間はなかったものの、筆者の報告には多くの関心が寄せられ、パネル終了時には何人もの研究者から調査に関する質問があった。本パネルにはベトナム国内以外の研究者も多く参加しており、中でも中国の研究者である朱銳泉氏は特に興味をもたれたようで、会議後も何度かメールをやりとりしている。日本語資料を所蔵している ISSI 側は、これら資料の存在やその価値を、国内外に発信したいという考えがある。本報告は、その希望に一定の成果を出すことができたといえよう。

3. 越南人徐元漠著『日本歴史略編』

さて、ここでベトナム国家大学ホーチミン市校にて報告した資料のうち、NBC5069『日本歴史略編』について、もう少し説明を加えたい。先に触れた金永鍵や NBC9299「異国渡海御朱印帳／異国近年御書草案／異国御朱印帳」、NBC9300「安南記／安南来状」に対し、本資料は2017年の洋装本調査で見つかったばかりの未紹介資料であるためである。

『日本歴史略編』の著者は越南人の徐元漠という人物である。B5版のノートにペン書きで、長さは150頁ほど、日本語で記述されている。徐元漠の自筆本と目される。内容は日本の歴史を神代にはじまり、神武天皇から昭和天皇まで叙述したもので、天皇ごとの歴史叙述、西暦に先んじて使用される日本紀元（皇紀）など、万世一系の歴史観のもと記述される。1950年の朝鮮戦争が最後の歴史事項で、その後、1951年9月15日に EFEO に寄贈されている。

序文はないが、冒頭で、徐元漠は次のように述べている。

（大東亜）の民でだいにっぽんていこくのだいとうあ（せんそう）以来全あしうのくにぐにがどくりつ成ってから、にっぽんのぐんたいをかんしゃする記念

の為に我等の誇るどうぶどうしゅのにつぼんのせんしんこくの耀いている歴史を知っていなければならぬ事が言ふまでもなく当然であるのである。(原文ママ、()は筆者補)⁽¹⁰⁾

また、徐元漢は『日本歴史略編』の末尾で、次のようにも述べる。

僕かこの日本歴史を書いた時に世界の何処の国には、戦争が愈々迫って来た。露西亜と美英との戦争は出来るかも知れぬ。独逸は参戦するか、参戦せざるかも知れぬ、僕が先覚士では無いだ。只にほん鼯鼠の才軽学浅な者でどうしゅの覚悟な心の中に深くにほんの武運を信じた。(原文ママ)

このように、徐元漢は日本の歴史を「日本の先進国の輝いている歴史」と述べ、その歴史を「知っていなければならぬ」ために本書を編纂したことが読みとれる。また自身を「にほん鼯鼠」な者であると称し、「日本の武運を信じ」としていると親日家であったことがうかがえる。

本書の述べる「日本の先進国の輝いている歴史」とは何か、また日本の歴史叙述は何に基づいているのかなど、詳しい資料の分析はこれから検討する必要があるが、本稿では、ひとまず著者である徐元漢に関して、現在までにわかっていることを記しておく。

ハノイの漢喃研究院に徐元漢が記したとされる書が2点ある。一つは A.3205の『越南音金雲翹歌曲訳成漢字古詩七言律』で、もう一つは A.3208の『徐元漢詩集』である。どちらも未見だが、『越南漢喃文献目録提要』によると、『越南音金雲翹歌曲訳成漢字古詩七言律』は、1950年9月20日に徐元漢が EFEO に寄贈した手稿であり、また、『徐元漢詩集』は、1951年に編纂されたものである。どちらも『日本歴史略編』の編纂時期と近く、『日本歴史略編』の著者である徐元漢と同一人物とみて良いだろう。

また、『越南漢喃文献目録提要』によると、『越南音金雲翹歌曲訳成漢字古詩七言律』には彼が1906年に郷科に合格し、諒山省巡府になったことが記される。なお徐元漢の郷科合格とはほぼ同時期に、潘佩珠の東遊運動によっておよそ200人ものベトナム人が日本へ留学している。現在のところ、徐元漢の足跡は不明であるが、彼もまた東遊運動に参加し日本へ留学した1人であったのかもしれない。もしそうであるならば、徐元漢は、東遊運動を研究する上で、極めて貴重な人物といえるだろう。

一方、『徐元漢詩集』には36首の詩が載っている。それらの詩の中には、母に従い寺に行った詩、父に従い Hà Long 湾に行った詩、友人を訪問した詩、官吏になった時また引退した時の詩などノスタルジックなものや、朝鮮についての詩、日本の歴史を読んだ感想についての詩などがある。つまり、『徐元漢詩集』には、日本に関する詩があり、今後、徐元漢が『日本歴史略編』を書くにいたった経緯を見て

ゆく上で、重要な書となると考えられる。

4. おわりに

本稿では、筆者がベトナム国家大学ホーチミン市校の国際会議での報告内容及びその際に紹介した徐元漠の『日本歴史略編』の概要を述べた。会議の報告結果から、本調査は多くの研究者の関心を引くものであるといえる。今後も機会があれば、積極的に本調査の紹介や資料のより詳細な分析を発信してゆきたい。

特に本稿で言及した徐元漠は、いまだ謎が多い人物である。彼がどのように日本語を学び、NBC5069『日本歴史略編』という日本の歴史に関する書を叙述することになったのか、そしてどのような経緯でEFEOに寄贈することになったのかなど、徐元漠という人物像を明らかにすることで、資料の分析のみならず、ISSIの日本語資料の形成も明らかにすることが可能であろう。今後、徐元漠の調査を進めるとともに、『日本歴史略編』の翻刻をおこない公開する予定である。

注

- (1) 報告内容は SANO Aiko 「Báo cáo điều tra tư liệu Viện Viễn Đông Bác cổ Pháp tại Viện Thông tin KHXH, Viện Hàn lâm KHXH Việt Nam —Chủ yếu là tư liệu về giao lưu Nhật Việt」(Đoàn Lê Giang, Nguyễn Công Lý, Lê Quang Trường chủ biên (2017) VIỆT NAM - GIAO LƯU VĂN HOÁ TƯ TƯỞNG PHƯƠNG ĐÔNG, NXB. Đại học Quốc gia TP. Hồ Chí Minh) (佐野愛子「ベトナム社会科学アカデミー・旧フランス極東学院蔵資料の調査について—日越交流資料を中心に」(Đoàn Lê Giang, Nguyễn Công Lý, Lê Quang Trường 主編 (2017) 『ベトナム—東方文化思想交流』ホーチミン市国家大学)) に載る。
- (2) 和田敦彦「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—東南アジア地域の日本語図書調査から」(『リテラシー史研究』7号、2014年)、和田敦彦「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院資料—共同研究と調査の進展」(『リテラシー史研究』9号、2016年)、渡辺匡一「ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査の経過報告—和装本資料群の特徴について」(『リテラシー史研究』10号、2017年)、佐野愛子「ベトナム社会科学院所蔵の「異国渡海御朱印帳」、「異国近年御書草案」、「異国御朱印帳」および「安南記」、「安南来状」について」(『リテラシー史研究』10号、2017年)
- (3) Quyên 氏は筆者ら調査団の事前の打ち合わせや、現地での通訳、調整を行う日本語日本文学の研究者でもある。
- (4) Nguyễn Dương Đỗ Quyên 「Tiến triển trong hợp tác nghiên cứu và điều tra tư liệu Viện Viễn Đông Bác cổ Pháp tại Viện Thông tin KHXH, Viện Hàn lâm KHXH Việt Nam」, *Thông tin Khoa học xã hội*, số 11, 2016
- (5) ベトナム語タイトルは注(1)を参照。
- (6) 尹大栄「1930-40年代の金永鍵とベトナム研究」(『東南アジア研究』48巻3号、2010年12

月)を参考にした。

- (7) 報告時間の関係で、会議では割愛することになったが、金永健の名刺が見つかった『朝鮮史』巻1(NBC7394)、また金永健への寄贈署名が入った『泰ビルマ印度』(NBC4315)や朝鮮時代の王室系図を示した『塔源譜略』(NBC9563)を紹介する予定だった。
- (8) 本資料に関しては、佐野愛子「ベトナム社会科学院所蔵の「異国渡海御朱印帳」、「異国近年御書草案」、「異国御朱印帳」および「安南記」、「安南来状」について」(『リテラシー史研究』10号、2017年)で紹介した。
- (9) 正確な大きさ、丁数に関しては、次回の調査で確認したい。
- (10) 原文には、漢字にルビが振ってあるが省略した。
- (11) 潘佩珠著、長岡新次郎、川本邦衛編(1966)『ヴェトナム亡国史他』平凡社

(さの・あいこ／明治大学大学院)